

科目名（英文表記）	経済学・分析手法 I（行動意思決定の基礎） （ Economics and Analytical Methods I ）		
科目区分	基礎科目	単位数	2 単位
担当教員名	吉地 望	ナンバリング	MBA_C_EA 5211
研究室番号		研究室電話番号	
Eメール・アドレス	kichiji@hmu.ac.jp		
<b>授業の内容及び方法：</b> 次頁以降に記載			
<b>授業の目的：</b> 本講義は、経営における効果的な意思決定を行うために必要な分析力と洞察力を養うことを目的とする。具体的には、行動経済学の知見を応用し、顧客と従業員の行動原理を理解することで、下記の能力の習得を目指す。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知バイアスの理解と分析：人間の認知活動におけるバイアスを認識し、その影響を分析できる。</li> <li>2. 意思決定要因の分析：意思決定に影響を与える様々な要因（心理的、社会的、経済的要因など）を分析できる。</li> <li>3. 意思決定心理の洞察：顧客や従業員の意思決定における心理的メカニズムを洞察できる。</li> <li>4. 効果的なコミュニケーション戦略の立案：行動経済学の知見に基づき、顧客や従業員の行動に影響を与えるコミュニケーション戦略を立案できる。</li> </ol>			
<b>到達目標：</b> 本講義を通して、受講者は以下のことができるようになる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事例研究を通じて、現実のビジネスシーンにおける認知バイアスと意思決定要因を分析し、その影響を評価できる。</li> <li>2. 行動経済学の理論を応用し、顧客や従業員にとってより効果的なコミュニケーション戦略、製品・サービス設計、組織運営方法などを提案できる。</li> <li>3. 経営における意思決定において、行動経済学的視点を取り入れ、より良い意思決定を行うための枠組みを構築できる。</li> </ol>			
<b>使用教材：</b> 授業は配付資料で行い、有用な書籍・資料等については随時紹介する。 ダニエル・カーネマン『ファスト&スロー』を参考にして講義を展開するが、必ずしも購入する必要は無い。短時間で行動経済学の全体像を簡単に掴むには、真鍋昭夫『行動経済学見るだけノート』が有用である。			
<b>成績評価の方法：</b> 出席：0%（但し、単位取得には5モジュール以上の出席が必要） レポート課題（全4回）：40%、 リフレクションシートの提出：30% 協働学習への貢献：20%、授業への参加姿勢：10% 上記のウエイトで評価する。 なお、具体的な課題は授業時に改めて指示する。 評価に不服のある場合には、不服申立書を以て教務委員長に申し出ること。			
<b>履修上の注意事項：</b> スキルを身につけるには学習したことを実践することが近道となる。 常日頃の自分自身や周囲の人々の判断に関して、学習内容を照らし合わせて、良い意思決定をもたらすには、どのような思考を行うことが望ましいのかを考えること。			